

令和4年度病虫害発生予察予報第4号(7月)

令和4年7月5日  
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生面積※
水稲(早期稲)	いもち病(穂いもち) ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ 斑点米カメムシ類	<u>やや多(東、中央、西)</u> 、やや少(中西) <u>多(東、中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、やや少(中西) <u>多(県下全域)</u> <u>やや多(西)</u> 、やや少(中央、中西)、少(東) <u>多(中央、中西、西)</u> 、 <u>平年並(東)</u>
水稲(普通期稲)	いもち病(葉いもち) ヒメトビウンカ セジロウンカ	<u>やや多(中西、西)</u> 、少(東、中央) <u>多(東、中央)</u> 、やや少(中西、西) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央、西)、少(東)
カンキツ類(温州ミカン)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 平年並(中央) 平年並(中央)
カンキツ類(中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>やや多(西)</u> 、少(東、中央、中西) <u>多(中央、中西)</u> 、少(東、西) 平年並(中西)、少(東、中央、西) <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(西) <u>多(東、中西、西)</u> 、平年並(中央)

※ ( )内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部  
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村  
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、  
 吾川郡いの町および高岡郡日高村  
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町  
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

## I 気象予報（高松地方気象台6月30日発表）

<予想される向こう1か月の天候> 7月2日から8月1日

暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の気温は高いでしょう。高気圧に覆われやすく、前線や湿った空気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。特に、期間のはじめは降水量の少ない状態が続く見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目および2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並、高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	10	40	50	
		降水量	40		40	20
		日照時間	20	40	40	

<気温経過の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	40	50	
2週目		20	30	50	
3～4週目		20	40	40	

<予報の対象期間>

1ヶ月：7月2日（土）～8月1日（月）

1週目：7月2日（土）～7月8日（金）

2週目：7月9日（土）～7月15日（金）

3～4週目：7月16日（土）～7月29日（金）

## II 病虫害発生予想

### 1 早期稲の病虫害

#### 1) いもち病（穂いもち）

発生量：やや多（東部、中央部、西部）、やや少（中西部）

#### 根 拠

(1) 6月の調査では、県下全域で葉いもちの発生がみられ、発生面積は県東部、中央部および西部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。また、発生程度は中西部でやや高かったが、その他の地域は平年並であった。

(2) 一方、現在、早期稲の主要品種であるコシヒカリの出穂期を迎えているが、四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されていることから、穂いもちの発生は、葉いもちよりも少なくなると考えられる。

## 対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。

### 2) ツマグロヨコバイ

**発生量**：多（東部、中央部、） やや多（西部）、 やや少（中西部）

#### 根 拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県東部と中央部で平年よりも多く、中西部と西部では平年並以下であった。また、発生程度はいずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 向こう1か月は暖かい空気に覆われやすく、気温は高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。

#### 対 策

- (1) 近年、本虫が媒介する萎縮病の発生はほとんどみられていないが、出穂期から登熟期にかけて高密度になると実入りが悪くなることがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。

### 3) ヒメトビウンカ

**発生量**：多（県下全域）

#### 根 拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積はいずれの地域も平年より多かった。発生程度はいずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 向こう1か月は暖かい空気に覆われやすく、気温は高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。

#### 対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないことや高密度になることもほとんど無いため、本虫のみを対象とした薬剤防除の必要性は低い。

### 4) セジロウンカ

**発生量**： やや多（西部）、 やや少（中央部、中西部）、 少（東部）

#### 根 拠

- (1) 6月の調査では、県東部を除く地域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年並、中央部と中西部で平年より少なかった。発生程度は、中西部と西部で平年並、中央部でやや低かった。
- (2) セジロウンカはトビイロウンカと同様に、6～7月に中国大陸等から飛来してくる害虫であるため、未発生地域でも発生が見られるようになると考えられる。また、向こう1か月は暖かい空気に覆われやすく、気温は高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。

#### 対 策

- (1) ほ場内での発生に注意し、高密度になった場合には薬剤防除を実施する。

### 5) 斑点米カメムシ類

**発生量**：多（中央部、中西部、西部）、平年並（東部）

## 根 拠

(1) 6月の調査では、県中央部以西のほ場でホソハリカメムシ、イネカメムシ等が散見されており、また6月中旬のアザミウマ類のすくい取り調査時(出穂前)にもクモヘリカメムシ等が捕獲されている。

## 対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤(ネオニコチノイド剤等)を用いる。

## 2 普通期稲の病害虫

### 1) いもち病(葉いもち)

**発生量:** やや多(中西部、西部)、少(東部、中央部)

#### 根 拠

- (1) 6月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県中西部と西部で平年よりも多く、東部ではやや少なく、中央部では少なかった。発生程度は、いずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されていることから、発生は減少すると考えられる。

#### 対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

### 2) ヒメトビウンカ

**発生量:** 多(東部、中央部)、やや少(中西部、西部)

#### 根 拠

- (1) 6月の調査では、いずれの地域でも発生が見られ、発生面積は県東部と中央部で平年よりも多く、中西部と西部で少なかった。発生程度は、県東部で平年よりも高く、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) 向こう1か月は暖かい空気に覆われやすく、気温は高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。

#### 対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないことや高密度になることもほとんど無いため、本虫のみを対象とした薬剤防除の必要性は低い。

### 3) セジロウンカ

**発生量:** やや多(中西部)、やや少(中央部、西部)、少(東部)

#### 根 拠

- (1) 6月の調査では、県東部を除く地域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年並、中央部、西部では平年より少なかった。発生程度は、県中西部でやや高く、西部で平年並、中央部では平年より低かった。

(2)セジロウンカはトビイロウンカと同様に、6～7月に中国大陸等から飛来してくる害虫であるため、未発生地域でも発生が見られるようになると考えられる。また、向こう1か月は暖かい空気に覆われやすく、気温は高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加するものと考えられる。

#### 対 策

(1)ほ場内での発生に注意し、高密度になった場合には薬剤防除を実施する。

### 3 カンキツ（温州ミカン）の病害虫

#### 1) そうか病

**発生量：**やや多（中央部）

##### 根 拠

- (1)6月の調査では、発生面積は平年よりもやや多く、発生程度は平年よりもやや高かった。
- (2)四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されていることから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

(1)幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

#### 2) 黒点病

**発生量：**多（中央部）

##### 根 拠

- (1)6月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度は平年並であった。
- (2)四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されていることから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1)密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生をできるだけ少なくするように管理する。
- (2)前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

#### 3) ミカンハダニ

**発生量：**平年並（中央部）

##### 根 拠

- (1)6月の調査では、発生面積、発生程度とも平年並であった。
- (2)向こう1か月は暖かい空気に覆われやすく、気温は高いと予想されている。本虫は高温期には増殖が緩慢となることから、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

(1)薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

#### 4) カメムシ類

**発生量：**平年並（中央部）

### 根 拠

- (1) 6月の調査では、園地での発生は見られなかったものの、フェロモントラップ調査での誘殺数は中央部で平年並、その他の地域では平年よりも多くなっている。
- (2) 園地への飛来は、湿度が高く夜温の高い日に多くなる傾向があり、また台風などによる強風の後にも飛来が増加すると予想される。

### 対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除を実施する。

## 4 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

### 1) そうか病

**発生量：**やや多（西部）、少（東部、中央部、中西部）

#### 根 拠

- (1) 6月の調査では、県東部と西部のユズで発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりもやや多く、東部で少なかった。発生程度は、いずれの地域も平年並か低かった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されていることから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

### 2) 黒点病

**発生量：**多（中央部、中西部）、少（東部、西部）

#### 根 拠

- (1) 6月の調査では、県中央部と中西部で平年よりも発生が多かったが、発生程度は両地域とも平年並であった。東部、西部では発生は見られなかった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されていることから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生をできるだけ少なくするように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

### 3) かいよう病

**発生量：**平年並（中西部）、少（東部、中央部、西部）

#### 根 拠

- (1) 6月の調査では、県中西部のポンカンで発生が見られ、発生面積、発生程度とも平年並であった。
- (2) 四国地方の向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想されていることから、台風の来襲がない限り発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

## 4) ミカンハダニ

発生量：多（東部）、やや多（中西部）、平年並（中央部）、少（西部）

### 根 拠

- (1) 6月の調査では、県西部を除く地域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年よりも多く、中西部でやや多く、中央部で平年並であった。発生程度は、県東部で平年よりも高く、中西部でやや高く、中央部で平年よりやや低かった。
- (2) 向こう1か月は暖かい空気に覆われやすく、気温は高いと予想されている。本虫は高温期には増殖が緩慢となることから増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

## 5) カメムシ類

発生量：多（東部、中西部、西部）、平年並（中央部）

### 根 拠

- (1) 6月の調査では、いずれの地域でも園地での発生は見られなかったものの、フェロモントラップ調査での誘殺数は中央部で平年並、その他の地域では平年よりも多くなっている。
- (2) 園地への飛来は、湿度が高く夜温の高い日に多くなる傾向があり、また台風などによる強風の後にも飛来が増加すると予想される。

## 対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除を実施する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.